



「仕事のある居場所」モデル実践と 他地域・他団体との共同実践

一般社団法人
NIMO ALCAMO

大阪府大阪市、京都
府京都市、全国

取組のかたち

ゼミ型プログラムを通じた
「仕事のある居場所」の他団体との共同実践

届けたい人たち

一般的な就労が難しく、
働きたいという意欲がありながら
就労機会を得られていない人を支援する団体

私たちの軌跡

私たちはこれまで、職場という居場所を失い、孤独や孤立のリスクを抱える休職者・離職者を対象にした居場所づくりに取り組んできた。単に集まるための空間を用意するのではなく、「仲間とつながること」や「小さな仕事を通じて役割や出番を持つこと」を大切にしながら運営している。その一環として、団体内で飲食店を運営し、安心して過ごせる居場所の中に、無理のない形で関われる中間的な仕事を組み込んだ場をつくってきた。

私たちの新たな取組

本事業では、休職者・離職者が日常的に立ち寄りやすいカフェを「仕事のある居場所」として継続して運営し、孤独・孤立の予防と回復につなげてきた。あわせて、支援者向けのケース相談会や勉強会を実施し、これまで現場ごとに行われてきた「居場所支援」の工夫やノウハウを整理・共有した。さらに新たな取組として、他団体と共同で実践ゼミを行い、各地で「仕事を通じてつながる居場所」づくりに取り組んだ。参加団体の実践を通じて支援の選択肢を広げ、全国に孤独・孤立対策の取組が広がるきっかけをつくった。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

これまで、福祉制度の対象にならず、就労など社会とのつながりを持たずにいる人をどう支えればよいのか、支援団体から多くの相談を受けてきた。「仕事がある居場所なら通いやすくなる人もいる」という声がある一方で、支援団体側には、仕事をどのようにつくればよいのか分からないという課題もあった。こうした声が全国から寄せられたことをきっかけに、オンラインで仕事づくりを学び合うゼミを企画した。現場の試行錯誤を共有しながら、「仕事を通じてつながる居場所」を広げていく取組である。

成功のカギとなった工夫とひらめき

本取組には、ケアラー支援や若者支援、ホームレス支援など、対象の異なる全国7団体が参加した。団体ごとに支援対象や地域環境、活用できる資源が異なるため、持続できる仕事のつくり方もさまざまであった。

各団体が実践した取組や工夫を共有し合うことで、自団体だけでは得られない視点や気づきが生まれた。現場の経験を学び合う仕組みをつくったことが、より深い学びと取組の広がりにつながった。

取組の成果

本取組には全国から7団体・21名が参加した。10月には現地視察ツアーを実施し、先進的な事例を学ぶとともに、対面での交流を通じて参加者同士の関係づくりを深めることができた。ゼミ終了後も意見交換を続けられるつながりが生まれたことは、大きな成果の一つ。また、ケアラー、若者、ホームレス支援など、多様な支援対象に応じたさまざまな実践の形を知ることができ、支援の幅広い可能性を確認した。さらに、7団体すべてが自団体の事業計画書の作成まで取り組めたことも重要な成果。今後は、各団体の実践を継続的にフォローしながら支援を行い、そこで得られる知見を整理・体系化し、より多くの地域で活用できる形にまとめていくことを目標としている。

団体概要

団体名	一般社団法人 NIMO ALCAMO
代表者	古市 邦人
設立年月	2020年11月
住所	大阪府大阪市東住吉区南田辺1-1-10
ホームページ	https://nimoalcamo.com
メッセージ	これからも、「すべての人は、環境さえ整えば働くことができる。」を実証していきたいと思えます！

取組の様子





手仕事が紡ぎ出す優しい世界線 「シェッド西成」

認定特定非営利活動法人
釜ヶ崎支援機構

大阪府大阪市

取組のかたち

手仕事を通じたつながりづくり
交流の場の提供

届けたい人たち

多世代の

- コミュニケーションに苦手意識のある人
- ひきこもり状態にある人
- 生活困窮状態の人

私たちの軌跡

路上生活者と路上生活に至るおそれのある人々の社会的処遇の改善活動、及びそれらの人々の自立支援が図られるような地域の形成に資する事業を実施している。

本事業の取組を担当した地域活性化事業部では、2019年度より、西成区の委託事業として区内在住の15歳以上の生活保護受給者を対象に生活支援、就労支援、居場所や社会的つながりづくりを行っている。

私たちの新たな取組

人との交流が中心となる居場所に馴染むことが困難な人向けに、手仕事をしながら徐々に他者がいる環境に慣れていくことができるような居場所の提供に取り組んだ。

前年度から継続するミシン技術の習得を目指す場。男性が圧倒的多数の釜ヶ崎エリアにおいて少数派である女性に限定したお菓子作りの場。木工作業好きな人が集まる出入り自由な場。他人とのコミュニケーションに苦手意識のある人もどこか覗いてみたくなるよう3つの場を用意した。手仕事を通じた達成感の獲得や、隣の人とものづくりの時間を共有することで孤立感を和らげてほしいという狙いをもって取り組んだ。

成功のカギとなった工夫とひらめき

ミシン作業やお菓子づくり、木工作業や工作といった手仕事を誰かと一緒にすることで、自然と会話が生まれる環境を作り出すことができた。コミュニケーションに苦手意識のある人も、例えばミシンの進め方を隣の人に尋ねたり、お菓子作りのなかで材料を混ぜる時に助け合ったり、段ボールの色塗りの仕方を教え合ったりと、「シェッド西成」の居場所では作業に関する会話をする必要性がある。「意識せずとも自然に他者と会話できるきっかけ」を提供できたことは大きい。

次回の実施内容について参加者の意見を募り取り入れることで、継続的な参加を促すことができた。

私にもできたあんなこと、こんなこと

新しいことへの挑戦に消極的だった参加者(60代)は、「倶楽部ぬぬぬぬぬう！」に継続参加することで不明点を他者に尋ねながら取り組めるようになり、「もっと上手になりたい」という向上心も生まれた。

同年代と話すのが苦手な「ろーじカフェ」参加者(10代)は、幅広い年代の人から声をかけられることで、少人数の顔見知りの集団の中で問題なく会話できるようになっていった。

子どもと接してみたかったが機会がなかった「自転車駄菓子屋サーカス」の参加者(50代)は、駄菓子販売を通して子どもたちとの会話を実現できた。今後も駄菓子販売を通して関わりたいとの意欲がある。

取組の成果

倶楽部ぬぬぬぬぬう！：7回開催(延べ39名が参加)、ろーじカフェ：7回開催(延べ30人が参加)、自転車駄菓子屋サーカス：9回開催(延べ42名が参加)
手仕事を習得することで自己肯定感が高まり、活動することへの意欲が高まった参加者が多かった。
継続して講座に参加することで参加者同士が顔見知りになり、スタッフがいなくても会話できる関係になった。「また会いたいから来た」と話す参加者が増えた。
継続開催を望む声が多いため、今後も新規参加者も募りながら取組を続けていきたい。

団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構
代表者	理事長 山田 實
設立年月	1999年9月30日
住所	大阪府大阪市西成区萩之茶屋1丁目5番4号
ホームページ	http://www.npokama.org/
メッセージ	シェッド西成ではこれからも手仕事づくりを継続的に行い、孤立を和らげる居場所として試行錯誤を続けていきます！

取組の様子

倶楽部ぬぬぬぬぬう！



ろーじカフェ



自転車駄菓子屋サーカス





取組のかたち

コミュニティカフェで役割と居場所を創出する
地域のかかわりを葬送支援を軸にして深める

届けたい人たち

多様な人が働き、集まる場づくりや
親族以外が行う葬送の取組に関心がある人

私たちの軌跡

わたしたちはこれまで、大阪市西成区の通称釜ヶ崎(あいりん地区)と呼ばれる場所で、瞑想と体操の会を定期的に行ったり、踊りや絵などを通じた文化的活動に取り組んできた。過去2年間の本モデル調査事業では地域の住民交流する場「萩小の森」でコーヒーを淹れて交流する活動、地域の空き店舗をお借りしてコミュニティカフェを立ち上げて働く場づくりを行ってきた。また、地域で福祉の活動を行う団体間の情報交換を通じてネットワーク形成に取り組んだ。地域にできる公共施設に必要とされる相談機能について行政と意見交換し、団体間でお互いの活動内容を知り地域の支援力を底上げする取り組みを行った。

私たちの新たな取組

今年度、新しく取り組んだのは「葬送サミット」と「葬送ガイドブック」だった。釜ヶ崎は単身高齢者の多い地域であり、親族との縁が薄い方が亡くなる時の看取り、見送りの取り組みが喫緊の課題となっている。これまで家族ではなく仲間で見送り合うことを実践してきた団体にインタビューして、単身で亡くなっていく方の葬送を行うことの知見をあつめ、「見送りハンドブック」の作成を通じた発信をしたり、見送りのあり方を考える「葬送サミット」を開催した。コミュニティカフェでの働く場についても、葬送サミットの会場やガイドブック作成のためのインタビューの場として活用し、より多くの人を巻き込めるように取り組んだ。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

10年前に瞑想会の実践を通じて、高齢の方が孤独に亡くなっていく姿に、「死と瞑想」というタイトルで、死に向き合う姿勢や葬送支援の取組紹介、模擬葬や親しい人を亡くした人へのケア・グリーフケアの紹介などを行ったが、10年たって、単身高齢者の葬送の問題は日本全国の課題となっていると感じ、今年度新たに、これまでの釜ヶ崎での葬送の実践を紹介する取り組みを行いたいと考えた。日本では葬儀は親族が行うことが前提の制度となっている。単身の方がなくなり、親族以外の方が葬儀を行う際の手続きや、困難さについて情報を集める必要があると思い取り組みを始めた。

私にもできたあんなこと、こんなこと

以下はコミュニティカフェに集まる人々の感想である：普通の会社と違い自分たちのやりたいようにやらせてもらえるのが幸い。ずっと立ちっぱなしで調理をしていたら足が痛くなるので、途中で座って野菜を切ったり、お皿を拭いたりできる。無味乾燥な軽作業というわけでもなく、指示に従って働くと言うのでもなく、例えば自分が作りたいメニューを考えてそれを作ったり、盛り付け1つにしてもどんなお皿や小鉢が似合うかな？とか、どのお箸にしようかな？とか感じて、盛り付けたりできるのもとても楽しい。メニューを書くのも自分の好きなクレヨンを使い、いろいろな色で遊んでみたり、、自分なりの美しさのセンスを発揮できる！

取組の成果

仕事づくりの場のひよんの実喫茶室は、毎週水曜日のランチ営業を行い、8名の方が就労体験をした。500円のランチには近隣の住人や働く人がのべ約200人利用してくれた。
 葬送サミットでは、25年前から住人の葬儀の取組を行うサポーターハウス「メゾンドビュー コスモ」や仲間の葬儀を行ってきた「紙芝居劇むすび」、地域の葬送支援団体「釜ヶ崎見送りの会」のお話を聞き、葬儀社や司法書士の方に実践上の質疑応答を行った。この様子をまとめた、「葬送ガイドブック」を作成した。今後も、地域のコミュニティカフェを継続して就労について考えていきたい。また葬送の取組についても集まった知見を広めていける機会をつくっていききたいと思う。

団体概要

団体名	ハレトケの会
代表者	小手川望
設立年月	2013年7月
住所	大阪市西成区花園北2-2-2マンションコスモス1階ひよんの実喫茶室方
ホームページ	https://www.facebook.com/haretokenokai/
メッセージ	これからの日本は、単身者が増え、単身で終末期を迎える方が増加していきます。一人で終末期を迎え亡くなる方をどう支えていけるか、取り組みが知られたらと思います。

取組の様子



記録写真上段左から 演劇部の発表会、萩之茶屋文化祭にコーヒー屋台出店、瞑想茶屋「怒り」について、萩小の森の朝コーヒー活動、下段左から「福祉支援者の集まり冊子」、「大晦日寄席」チラシ、「葬送サミット」、「葬送サミット」振り返り、ひよんの実喫茶室の500円ランチ、ランチ用に届いた野菜の写真



取組のかたち

体験学習、学習支援
地域イベント

届けたい人たち

地域の家庭、子どもとその保護者
外国籍・外国にルーツのある家庭

私たちの軌跡

民設民営の隣保館「にしなり隣保館ゆ〜とあい」を拠点として生活総合相談の場として地域の様々な課題の解決に取り組んできた。子どもから高齢者まで幅広い分野にて活動、相談対応を行っており、衣食住の支援や若者の就労支援など多岐に亘る。

子ども対象の活動としては居場所活動を中心にゆ〜とあいだけでなく、学校内での活動を行い、また子どもの不登校未然防止と将来の就労に向けて意識を高めるために、学力向上や体験機会の創出を目的として年間を通じて活動を行っている。

私たちの新たな取組

本事業では今までの行ってきた活動に、新たに「家庭との接点を増やす」「学校機関との連携」「成果の出る活動実施」の3点に注力して事業に取り組んだ。今まで子どもに焦点をあてていた活動を外部講師による体験活動、親子農作業活動、日本語教室での保護者参加型イベントなど子ども達の各種課題を解決するための根幹にある家庭との接触頻度を高めた。また放課後学習支援では、より質の高い授業、課題解決ができるように大学と提携して人材派遣を受ける、スタッフ・ボランティアの人材確保、支援機関との連携強化を図った。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

大阪市西成区は地域的に様々な課題を抱えた人が多数いる。その課題が負のスパイラルとなって子ども達に押し付けられないようにするために取り組みを始めた。元々あった活動では居場所活動として確かに子ども達は楽しんでいる姿が見れる、しかしその中で本当にただ楽しいから、自由に過ごせるから、ご飯が食べれるから集まろうというだけで、地域の課題が根本的に解決できるのか悩んだ。そこで親子の体験活動や学校を通じた活動を行うことで、最初はあまり変化がなかったが、少しずつ保護者からの直接の相談が増え、相談を解決するためには自分たちだけでなく、様々な支援機関を活用することに変化していった。

誰もが「行ってみよう」と思える場を

本事業では今まで狭いエリアで実施していた活動の範囲を広げ、より参加者を募りやすくするだけでなく、1つ1つの活動に違いを設け、週替わりでの内容の異なる体験活動を実施、また体験の内容も内部外部を問わず、広く募集をすることで、子どもと大人が来るたびに新しい発見がある活動にし、参加者が自分たちで自主的に選び、選んだ中で責任をもって自分たちで主体的に動けるように環境を整えていった。また子ども達に広く知ってもらい、活動施設に来るハードルを下げるために、学校内での活動を増やし、授業の一環として行うことで、自分も行ってみようと思えるようにした。

取組の成果

本事業において、当団体での活動参加と学校との連携において、不登校児童2名が学校通学に復帰できるようになった。また家庭とつながりを持ち様々な相談を受け、具体的な保護者の悩みを背景に学校と連携する中で、活動の広がりや地域担当以外の先生の活動への意識向上が見られるようになった。来期は現在の活動を継続しつつ、新たに地域内の商店街テナントを活用した、第二の居場所・学習支援の場を創ることで、より範囲の広い支援の場の提供と、商店街を活用した、子どもや若者の就労体験の場、イベントの実施、家庭が集う場所を開き、地域の新たな取り組みにしておく。

団体概要

団体名	一般財団法人 ヒューマンライツ協会
代表者	寺本 良弘
設立年月	1999年12月
住所	大坂府大阪市西成区出城2-5-9
ホームページ	www.human-ref.jp (財団) https://s-you-i.jp (隣保館ゆ〜とあい)
メッセージ	ゆ〜とあいは生活総合相談の場だけではなく、貸室やサークル活動、講習講座、カフェもあります。近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください！

取組の様子





自治会運営の課題解決を支えるデジタル化推進支援による孤独・孤立を防止

一般社団法人
Shien

大阪府岸和田市、貝塚市、阪南市、奈良県生駒市、京都府京田辺市、長野県東御市

取組のかたち

地域の情報伝達手段
(回覧板・掲示板・町内放送)
のあたりまえをデジタル
(結ネットアプリ)で支援する取組み

届けたい人たち

自治会・町会役員、住民(高齢者・子育て世帯)、地域活動に参加が難しい人(障がい者・外国人住民世帯)自治体の地域支援に関わる職員等

私たちの軌跡

自身の町会での経験や他の自治会の声から、従来の手間暇のかかる情報伝達が、現代社会の生活様式の変化に対応していないため、加入率低下や担い手不足、情報が届かない住民の増加につながっているという課題が見えてきた。そこで、誰でも使える地域向け情報共有手段として地域ICTプラットフォーム・結ネットアプリが誕生した。その仕組みを構築されるために、デジタル推進活動や説明会・操作支援を重ね地域に根付かせ、自治体や関係団体と連携しながら、未来のあたりまえとした持続可能な自治会運営と孤独・孤立防止につなげていく。

私たちの新たな取組

デジタル機器を持たない高齢者にも情報を届けるため、音声でお知らせが届き、災害時には「無事」・「助けて」と発信できる安心見守り端末「マゴスピーカー」と結ネットアプリを連携させた取組みを進めている。また自治会では、結ネットアプリを活用した自主防災訓練を実施し、加入世帯のデジタルで安否確認を行える仕組みを構築させ、さらにデジタルに不慣れな高齢者に向けて、地域主体の操作方法勉強会を開催し、デジタルデバイドの解消にも取り組んでいる。こうした活動を通じて技術ありきではなく「現場起点」で地域の課題解決を支え、共生社会の実現となるデジタル化の推進支援を行っていく。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

令和の時代を迎え、私たちはふと疑問を持った。昭和から続く回覧板は、これからも同じ形で続いていくのだろうか。自宅を順に回る回覧板だけで果たして地域の情報はすべての人に届いているのだろうか。この素朴な疑問から我々の取組みの出発点であった。その後、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、社会全体でデジタル化が急速に進む一方、前例を踏襲してきた自治会運営は、暮らしの変化や価値観の多様化に追いつけておらず、このまま放置することは自治会の衰退につながり、さらには自治体の弱体となると強い危機感を持ち、この取組みが生まれた。

成功のカギとなった工夫とひらめき

2018年当時、60代のスマートフォン保有率は6割に満たず、回覧板のデジタル化には高齢者を中心に多くの反対の声を受けた。そこで我々は、各地で発生する大規模な複合災害の事例をもとに、情報共有や安否確認が自助・共助の初動対応に不可欠であることを丁寧に伝えてきた。その結果、防災という共有目的をきっかけに、デジタルに慣れた若い世代とデジタルに不慣れな高齢世代との融合となり、操作支援や情報発信を担う役割分担となり、自分たちのまちは自分達で守る共通目的から生まれ、高齢者を支え、災害に強い、住み続けられるまちづくりを意識した変化となった。

取組の成果

地域住民が参画できる情報共有をデジタル化することで、自治会運営の負担を軽減し、災害時の備えとしても住民の理解も深まった。その理解が、地域への広がり、取組みは他の自治会や地域全体へと波及のきっかけとなり、自治体の公助にもつながった。

その結果、自治体との連携協定となり、官民連携となる地域支援アプリ「結ネット」を活用した地域デジタル化が進展し、共生社会実現の基盤となり、持続可能な自治会運営と孤独・孤立防止に寄与できたのではと考える。

団体概要

団体名	一般社団法人Shien
代表者	山田 浩史
設立年月	2018年7月
住所	大阪府岸和田市作才町1254-803
ホームページ	https://shien-yuinet.jp/shien/
メッセージ	デジタルの力で自治会運営の効率化から地域・住民・行政を結び情報が届かないことによる孤独や不安をなくし、誰もが地域に参加しやすい持続可能なコミュニティから共生社会の実現を目指し活動をしています。

取組の様子

デジタル化推進支援の取組



開始から約8ヶ月の間取組み



自治会運営のデジタル化説明会



デジタル化推進案内チラシ



高齢者アプリ操作説明会 自主防災訓練で安否確認実施案内チラシ





取組のかたち

交流の場の提供・居場所作り

届けたい人たち

不登校の子を持つ保護者
不登校の児童・生徒

私たちの軌跡

不登校の子を持つ保護者が安心して繋がれる地域密着のコミュニティ作りを行っている。

- LINEのオープンチャット機能を利用したコミュニティの運営・管理
- リアルで話せる場として吹田市内各所で「おはなし会」開催(月1回)
- フリースクールと協働し、親子で利用できる居場所作り(毎週水曜日)
- 平日昼間の子ども食堂(不定期)
- 不登校理解を広める活動(勉強会や講習会、不登校フォーラムの開催など)

私たちの新たな取組

不登校支援の専門家による講演会の実施。

不登校の子を持つ保護者のスキルや経験を活かしたワークショップを企画・開催し、多様な繋がり場を創出するとともに、不登校保護者が抱える孤独・孤立感を緩和する。

近隣大学と連携し、地域の不登校支援資源(相談窓口や居場所など)の可視化による充実した情報提供。

社会福祉協議会と連携し学校や家庭に留まらず地域も巻き込み包括的に不登校家庭を支える仕組みを考えて行くことで、不登校家庭が孤立しない社会を目指す。

最初の一步はこんなところから

近年、不登校の児童生徒数が増加し、社会的な関心も高まりつつある。不登校支援については、フリースクールや子どもの居場所づくりなど、子ども本人を対象とした支援や認知は一定程度広がっている一方で、その子どもを支える保護者に対する支援や、保護者自身の孤独・孤立の実態については、十分に把握・対策されているとは言い難い状況にある。本事業を通じて保護者支援の必要性を社会に共有するとともに、当事者同士のつながりを基盤とした地域の取り組みが、孤独・孤立の緩和にどのように寄与するのかを明確化することを目的として、本取り組みを開始した。

この取り組みがあったからこそ

本事業では、不登校の子を持つ保護者を講師として招き、ワークショップを実施した。子どもが不登校状態にある保護者は、子育てへの自信を失ったり、自責の念を抱えやすいため、日頃の関わりでは悩みの共有に偏らず、雑談を交えながら保護者本人の経験や得意なことが語れる雰囲気づくりを意識した。その過程で把握した個々の関心や強みをもとに講師として参加を依頼した結果、利用者であった保護者が役割を持って関わる機会が生まれた。アンケートからは、講師経験を通じて孤独感の緩和や自己有用感が高まったことが確認され、こうした経験が継続的に居場所へ足を運ぶきっかけとなり、主体的なつながりへと発展した。

取組の成果

【開催実績】…保護者講師によるワークショップ(7回65名)/著名講師による講演会(1回35名)/地域出前講座(3回54名)/支援MAPアクセス数(102)➡本取り組みにより、不登校の子を持つ保護者には孤独・孤立を抱える人が一定数いることが明らかになった一方、参加後には多くの方がその緩和や安心感を実感しており、当事者同士が安心して関われる場の有効性が確認された。本事例は、専門職による支援の重要性を前提としながら、当事者同士が立場の近さを活かして関わることで、専門的支援だけでは補いきれない安心感やつながりを生み出し、孤独・孤立の緩和と継続的な関係形成につながり得ることを示したといえる。

団体概要

団体名	不登校ひろば@吹田
代表者	井上 晶子
設立年月	2022年10月
住所	大阪府吹田市片山町4丁目 42-27-2
ホームページ	https://londonartday.my.canva.site/futoko-hiroba-suita
メッセージ	私たちは当事者同士で支え合うピアサポートグループです。当事者の当事者による当事者のための繋がり場をこれからも作り続けていきます！

取組の様子



多目的ホール
Multipurpose hall
多功能大厅
다목적 홀

不登校ひろば@吹田

←著名講師による保護者向け講演会の様子



ヒンメリ作り
Workshop

ヒンメリとは、糸を通して八面体に仕上げられたフィンランドの装飾品のこと

12/10 Wed.

10:30~14:00 @さたけん家

参加費：100円(材料費) 事前申し込み不要

主催・お問合せ 不登校ひろば@吹田

↑保護者講師によるワークショップ開催チラシ

保護者講師によるワークショップ開催の様子







シャッター商店街の空き店舗を活用した 複合的相談・交流拠点

みんなの居場所・
ほっとひといき

大阪府箕面市

取組のかたち

フードパントリー
チャリティショップ
ミニイベント

届けたい人たち

ひとり親世帯や子育て世帯
地域の人々
高齢者

私たちの軌跡

コロナ禍以降、人が望まない孤独・孤立に陥らないように、「安心して集まれるほっとできる場所」が地域に求められている。大阪府箕面市の桜井駅周辺は、昭和期に形成されたベッドタウンであるが、駅前商店街の空洞化(シャッター化)が進み、以前は自然にあった地域の見守りや交流の機能の低下が課題となっている。こうした状況を受け、人と人が助け合えるやさしい社会の実現をめざし、行政・民間で相談経験のある女性たちが中心となり、ひっそりとした商店街の小さなお店を活用して、「相談もできる交流拠点づくり」を2025年1月から開始した。

私たちの新たな取組

私たちは「安心して集まれるほっとできる場所」を作るために以下のような活動を始めた。

- ・ 週末チャリティショップ: 高齢女性やシングルマザーの活躍の場が生まれた。
- ・ フードパントリー: シングルマザーを中心に食品提供。ただ食品を渡すだけでなく、ゆっくり話をしてもらう居場所に。気持ちや悩みごとを相談していかれる方もたくさんいらっしゃる。
- ・ ミニイベント: わらべうた、アロマ、脳トレの三種類のイベントを実施。あかちゃんを育て中の母親・父親から高齢男性まで、これまでの活動になかった新しいタイプの来訪者につながった。

“来る人”から“関わる人”へ

もともとは利用者であった方が活動の支援を行ってくださることでコミュニティの輪が広まった。

- ・ フードパントリーの利用者が、自然にミニイベントやチャリティショップを手伝ってくださるようになった。
- ・ 他のチャリティショップのスタッフでもあるシングルマザーが遠方から手伝いに来てくれた。
- ・ スタッフの知人が、フードバンクからの食品運搬を楽しんでくれるようになった。

小規模の団体であることから、スタッフの人数が十分でない機会も多く、現場で積極的に動いてくれる人が増えたことは、活動が円滑に進むこと、今後活動を拡大していくことに繋がっている。

取組の成果

主な成果として以下が挙げられる。以下の成果の中で関わる人の輪が広がったことも成果の1つである。

- ・ 週末チャリティショップ: 年末年始をのぞく毎週末、チャリティショップをオープン。
- ・ フードパントリー: 毎月平均10名程度に月1回、無料で食品提供。シングルマザー世帯中心。
- ・ ミニイベント: あかちゃんからのわらべ歌(計3回)アロマワークショップ(計2回)脳トレワークショップ(計1回)実施。

今後の目標はチャリティショップをコミュニティクローゼットにすること。食と衣の一体型支援を目指します。

団体概要

団体名	任意団体 みんなの居場所 ほっとひといき
代表者	梅澤 昌子
設立年月	2025年1月
住所	大阪府箕面市桜井2丁目10-5 阪急桜井商店街東10
ホームページ	https://moufu-hitoiki.com/
メッセージ	行政・民間で相談経験のある女性たちのグループ。大阪府箕面市の小さな商店街のお店で、「相談もできる居場所づくり」をしています。

取組の様子

◆ アロマワークショップの様子



◆ チャリティショップの様子



◆ フードパントリーちらし



◆ あかちゃんからのわらべ歌の様子



◆ 脳トレイベントの様子





取組のかたち

ボードゲームを通じた交流の機会の創出
居場所と居場所の交流(コラボ企画)
安心して他者と交流できる居場所づくり

届けたい人たち

ひきこもり状態の人やその家族
不登校児童生徒やその家族、障害者、留学生
ボードゲームや居場所づくりに関心のある人

私たちの軌跡

私たちは、不登校・ひきこもり支援に関心のある公認心理師など、有志のメンバーが集い活動しているコミュニティ支援チームである。2020年から、主にひきこもり状態の本人や家族が参加できる地域の居場所づくりに取り組んでいる。「つながれる誰かがいる」と思える支え合いのコミュニティを広げるために、ひきこもり経験者や家族、障害者、留学生など多様な主体を含みながら、共に楽しみ・支え合う関係性の継続を大切にしている。大阪府内のあちこちで、自治体や社会福祉協議会等とも連携しながら、地域会館を使った居場所の機会を創出している。近年はオンラインの居場所にも取り組んでいる。

私たちの新たな取組

多様な主体が楽しみながら交流できる機会として、オリジナルボードゲームを含む、さまざまなゲームを通じて他者と出会い、交流するイベント「ボードゲームワークショップ」などのコラボ企画に取り組んだ。他団体との共催イベントを企画したことで、多様な居場所の利用者同士が交流し、つながりを広げる機会を提供することができた。

また、主に不登校やひきこもり状態の人が参加できる新しい地域の居場所を開設した。大阪市東淀川区の地域会館で「大隅西サイコロ倶楽部」を定期的で開催し、新しい人と人との出会いを創出することができた。

“来る人”から“関わる人”へ

私たちはあちこちの地域会館で居場所活動を行っているが、自由に過ごせる居場所のなかで、さまざまなボードゲームを楽しんでいることが特徴であった。また、ある居場所には、オリジナルボードゲームを創作している仲間がいた。そこで、ボードゲームを活用した交流イベントを開催すれば、より多様な主体がつながるきっかけになるのでは？と思い、今回の取組みを始めた。「ボードゲームワークショップ」では、参加者に対してゲームの説明をする人がたくさん必要である。いつも居場所を利用しているひきこもり経験者の仲間たちが、サポーターとしてゲームの説明をしてくれた。支援される側から「する側」になった瞬間だった。

取組の成果

ボードゲームワークショップなどのコラボ企画を10回、新しい居場所の開催を11回行い、多くの新しい出会いがあった。「ボードゲームワークショップ」では、主にひきこもり経験者がサポーターとなって、参加者にゲームを説明し、共に楽しむ役割を担った。普段、居場所の利用者として「支援される側」にいる仲間が、さまざまなボードゲームで遊ぶ経験を持っているという「強み」を活かして、参加者をサポート「する側」になる機会であった。ひきこもりがちなサポーターにとって貴重な交流の体験になっただけでなく、参加者(地域住民や支援者等)にとっても、ひきこもり経験者に対するイメージを再構築する機会になったと考える。

団体概要

団体名	こころの健康えとせとら
代表者	岩田 光宏
設立年月	2020年4月
住所	大阪市東淀川区大隅2-2-8大阪経済大学岩田光宏研究室
ホームページ	https://kokoroetc.org/
メッセージ	ボードゲームを活用したコラボ企画に関心はありませんか？オンラインの企画も可能です。ぜひお声掛けください。もちろん居場所への参加もお待ちしております。

取組の様子

◆ イベント周知用チラシ



こころの健康えとせとら・大阪経済大学岩田ゼミ★コラボ企画★

Board Game Workshop

サポーター養成講座

ボードゲームワークショップをお手伝いしてくれるサポーターを募集しています！
あなたも養成講座に参加してサポーター活動を始めませんか？

8月20日(水) 10:30~16:30
@大隅西会館

〒553-0005 大阪府大阪市東淀川区大隅3丁目3-30
(大隅大前のローソンの裏です)
参加無料・出入り自由(何時に来て何時に帰ってもOKです)

参加登録フォーム

協力: 大阪経済大学岩田ゼミ・ボードゲームサークルAcappuccino (大阪経済大学)
令和7年度地域における福祉・自立支援に関するNPO等の活動モデル調査事業



★コラボ企画★居場所交流

ボードゲームを一緒に楽しもう!

ボードゲームを創った方、心理士さん、学生さんが来てくれます!

こころの健康えとせとら × JOCA大阪 × スペース正雀 てとでのwacca

いろいろな世代の人が集まる 不登校・ひきこもり状態のご本人を中心とした 居場所 子ども・自立が希望する居場所

2025年9月12日(金) 10:00~12:00
JOCA大隅 電話:06-4880-7700 TEL:06-4880-7700

遊びに来てください!



地域の居場所

大隅西サイコロ倶楽部

おやすみにしさいこころらぶ



HALO COMPETITION

ENTRY|23TH DECEMBER 2025

HALO CARD GAMEのオンライン大会を開きます。

- エントリー締め切り: 11/23日19:00
- エントリー方法: @BSCORPロビーから参加表明
- 大会形式: 参加者が4人以下ならリーグ、4人以上ならトーナメント(無作為にシードあり)
- 日程: 各マッチは独立した日程で行われる。日程は対戦プレイヤー2人の希望に応じて調整される(種別片側の日程が合わない場合、不戦敗を認める)。
- マッチの日程とルールは公表され、自由に見学できる。ただし敗退していないプレイヤーは他のマッチを見学できない。
- 使用カード: 締め切り時点での最新VER。●使用デッキ: 各PLは実装カード全てを2枚ずつ持ち、そのカード内からデッキ(金庫含む)を作る。
- 試合形式: 各マッチは二番先取。勝ったデッキはそのマッチ中使えない。

皆様のご参加をお待ちしております。

質問なども、ございましたらお気軽にどうぞ。



居場所づくりにおける
ボードゲームの活用を体験しよう

日時
11月4日(火) 14時~16時

会場
和泉市コミュニティセンター 1階 大集会室
〒594-0071 大阪府和泉市中町2丁目7-5

主催: 和泉市くらしサポート課
協力: こころの健康えとせとら

ボードゲームワークショップ

ボードゲームで楽しく遊ぶことを通じて、不登校やひきこもり状態の人、支援者という垣根を越えたさまざまなタイプの人との交流を広げます。

講師: 岩田光宏(大阪経済大学人間科学部/こころの健康えとせとら)

対象者
ひきこもり当事者・家族・支援者、居場所づくり・ボードゲームに興味がある方

定員: 50名 事前申込有(下記の申込先まで) 当日参加可能

〈お問い合わせ・お申込〉
和泉市 市民生活部 TEL: 0725-99-8100 FAX: 0725-41-1778
くらしサポート課 E-mail: support@city.osaka-izumi.lg.jp

◆ 関係者が作成したカードゲーム



◆ イベントの様子





取組のかたち

学校を中心とし大人がつながることで、
今と未来の子どもたちの孤立・孤独を防ぐ

届けたい人たち

今を生きる子どもたちと未来の子どもたち
子どもをとりまく大人たち

私たちの軌跡

NPO法人化以前の2017年より、子どもの居場所づくりや進路選択支援に取り組むとともに、行政計画への参画などを通じて、地域における子ども支援の基盤づくりを行ってきた。法人化以降は、行政と連携しながら、子ども支援の仕組みづくりに取り組んでいる。主な実績としては、2017～2019年度にトヨタ財団の助成を受け、中学生の進路選択を支援する取り組みを実施。2022～2024年度にベネッセこども基金の助成を受け、学校を中心とする支援ネットワークモデルを開発。さらに2023～2025年度に日本財団の「子ども第三の居場所」事業に採択され、子どもの包括的な支援の仕組みづくりを進めている。

私たちの新たな取組

本事業では教職員や専門家、そしてICTを活用した児童のアセスメントを実施し、子どもたちの孤独孤立予防施策に取り組んだ。具体的には摂津市教育委員会の協力のもと、鳥飼北小学校をモデル校としてアンケート調査を実施。日常生活の中での児童たちの心のSOS等を可視化し、課題を抽出。課題の解決手段として、企業での職場体験や地域団体とのボッチャ体験、多国籍料理店とのメニュー開発といった地域の大人を巻き込んだプログラムを実施した。プログラムを通じて、地域の大人と繋がる楽しさを感じ、児童たちの受援力を育むことで、孤独・孤立の予防を目指した。

つながりを力に一連携の工夫

30年前と比較すると共働き世帯の割合は47%から70%へと大きく増加。女性や高齢者の就労が進んだことでPTA活動や地域活動の担い手が不足し、地域のつながりが希薄化している。加えて、年収の中央値は約60万円低下しており、利他的な行動よりも自己を優先せざるを得ない社会構造となっている。こうした状況は、子どもを支える基盤の弱体化につながっている。本事業では、学校を中心とした地域の協力体制の再構築をめざした。また、特定の人に負担が集中せず、より多くの人に関わりやすい継続的な仕組みとなるよう学校運営協議会の設立を視野に取組を進めた。

取組の成果

7月、11月にアセスメントを実施。「他者信頼」の数値が0.1～0.2ポイント(0.1ポイントで有意差とされる)上昇した。本事業との因果関係の特定や調査に伴う教職員の負担増といった課題は残るものの、教職員からは児童たちの前向きな変化を肯定する声も多く、取組の価値は高いと考える。鳥飼北小学校では、今後、学校運営協議会の設立を予定しており、それに向けた地域の大人たちによるサポーター組織も本事業を通じて立ち上げることができた。今回の取組を継続・発展させていくため、学校運営協議会を中心とした地域の協力体制の構築、そして学校と地域をつなぐコーディネーターを担う人材の配置に取り組んでいきたい。

団体概要

団体名	NPO法人 COCONI
代表者	水木 千代美
設立年月	2020年7月
住所	大阪府吹田市
ホームページ	https://coconi.or.jp
メッセージ	ビジョン:すべての子どもたちが一歩先への希望をもてる社会 ミッション:身近な大人たちがつながることで子どもたちの生き方の選択肢を広げる

取組の様子

企業・福祉施設・公共施設・地域・保護者との連携プログラムの様子(鳥飼北小学校3～6年生)



公民館でクリスマスカードづくり

公民館職員・摂津市社協・福祉委員会と連携し、高齢者にカードをプレゼント。



福祉施設・地域団体とボッチャ体験

障がい者支援施設・地域のスポーツ団体・自治会と連携し、保護者も参加し実施。



多国籍料理店とメニュー開発

地域の多国籍料理店・通訳者に保護者や学生・翻訳アプリ開発者と連携して実施。



企業と職業体験(キャリア教育)

複数の地域の企業と連携し、見学だけでなく体験プログラムも実施。



教育委員会・学校・地域・保護者会議

本プログラムに協力いただいた企業や地域の方がサポーターに登録。



心と体を元気に!パーキンソン病当事者・家族を繋ぐ地域支援事業

認定特定非営利活動法人
てんびん

兵庫県神戸市、芦屋市、宝塚市、三田市

取組のかたち

地域における包括的支援の提供・
交流の場の提供

届けたい人たち

パーキンソン病当事者とその家族

私たちの軌跡

パーキンソン病当事者と家族の孤立を防ぐため、運動・交流・学びを組み合わせた「安心してつながれる場」を兵庫県内を中心に作っている。医療・当事者・市民ボランティア等と協働し、当事者の声を起点に改善を重ねる運営を大切にしている。先輩当事者と後輩当事者が互いに学び合い、知恵や経験を交換し合えるような「パーキンソン病寺子屋」、地域の子供達が楽しく難病を学ぶことが出来る「アニメーション人形劇」、アートを使って医療機関ではカバーできてない心のリハビリを行う「パーキンソン病アートセラピー」等を開催し、当事者が生きる力を高められる場を作っている。

私たちの新たな取組

兵庫県内の4地域(芦屋・神戸・宝塚・三田)において、パーキンソン病の当事者とその家族を対象に、PDヨガ(パーキンソン病の患者やその家族のために設計されたヨガ)の講座と当事者や支援者との交流会を開催。運営には、看護師資格を持つ当事者や地域の患者団体、地域のボランティアが関与し、細やかな支援とともに、地域で繋がりを続ける交流の場づくりを目指した。孤立防止とパーキンソン病の地域理解の深化を目指しモデル性のある地域密着型プログラムを展開する。

この取組が生まれた“はじまりの物語”

パーキンソン病の当事者とその家族は、「外出が怖い」、「迷惑をかけたくない」といった思いから他者との接点が減り、孤立を深めやすい傾向にある。団体のこれまでの活動の中で「相談先が分からない」、「気づけば家にこもっていた」といった、支援が届く前に孤立が深刻化する実態がわかった。そこで県内の4地域(宝塚・芦屋・神戸・三田)で、気軽に参加できる「PDヨガ講座」を入り口に、地域の当事者や支援者との交流会を実施。身近な地域で不安を吐露し、支援へつながる仕組みを構築した。「外に出られない当事者が誰かと繋がれる場所を作りたい!」という思いが取組の出発点である。

成功のカギとなった工夫とひらめき

PDヨガを「単なる運動の場」で終わらせず、終了後に交流会を組み込んだことが最大の工夫である。参加者が不安や困りごとをその場で言語化することで、当事者同士のつながりが生まれ、地域の患者会や医療機関といった相談先へつながり事ができた。また、参加者のアンケート結果と運営ミーティングでの意見に基づいて、内容を改善し続けることで、参加者のニーズにあったプログラムへと深化させ、継続参加率の向上につなげた。さらに、各地域でお世話役となる当事者メンバーを配置。お世話役の方に協力いただくことで、行政や医療機関などの地域の主要機関への広報活動を行うことができた。

取組の成果

県内4地域で実施することで外出・参加のハードルを下げ、当事者とその家族が継続的につながる入口を構築した。アンケートでは、「可動域・すくみ足・呼吸のしやすさ」の3項目で改善を確認。特に運動前の状態が優れない人ほど改善幅が大きく、身体機能への改善実感が外出不安を和らげ、社会参加を後押しする契機となった。10段階評価による満足度は平均8.9、次回参加希望は平均9.5と高く、孤立予防の基盤は整ったと考える。今後は、満足度が低い層への個別フォローを強化し、支援からこぼれやすい人を地域の相談先へ確実につなぐ仕組みを検討していく。

団体概要

団体名	認定特定非営利活動法人 てんびん
代表者	河野 由季
設立年月	2022年6月
住所	兵庫県神戸市灘区六甲台町5-31カルム六甲3階
ホームページ	https://10bin.jp/
メッセージ	病や老いをきっかけに、「いまをどう豊かに生きるか」を当事者・ご家族と共に考えます。アート・対話・運動の場づくりを通して、医療だけでは埋めきれない孤立や不安に寄り添い、生きる力を育む活動を続けています。

取組の様子

主催 認定NPO法人 てんびん

やさしいPDYOGA@三田

パーキンソン病当事者とご家族のための

日程：11月6日「木」筋力を強化し日常生活の動きをサポート
 場所：三田まちづくり協働センター1講座室

11月12日「水」震えを減らし、歩きやすさ向上
 場所：三田まちづくり協働センター1講座室

12月18日「木」ストレス軽減と体の安定を目指す
 場所：三田まちづくり協働センター1ホール

1月28日「水」心身の調和を取り戻す
 場所：※2/25等でご連絡いたします※

時間：午後2時から4時
 (午後3時までPDYOGA)

参加料：無料
 (午後3時から交流会・個別相談会)

講師：玉本 恭子 先生
 監修：松井 慎一 先生 / 作業療法士

お問い合わせ
 認定NPO法人てんびん 事務局
 メール：info@animas-fas.com
 電話：078-802-3399
 HP：https://10bin.jp/

お申し込みフォームはこちら
 お申し込み後、確認メールをお送りします。(先着順)

ボランティアお申し込み
 てんびんHP
 11月以降の会場はこちらでご確認ください。

■ 助成 | 内閣府「令和7年度 地域における孤独・孤立対策に関するNPO等の取組モデル調査」



孤独・孤立を防止する、学生による 学生のためのキャンパスカフェ

学校法人吉園
神戸女子大学

兵庫県神戸市

取組のかたち

日常生活環境(大学キャンパス内)における
ピア・サポートによる居場所・つながりづくり

届けたい人たち

学科や学年を超えて気軽に相談したり話したり
できる人や場所、つながりを求めている大学生

私たちの軌跡

近年、若年層(20代~30代)の孤独感が注目されている。大学では地元を離れて通学する学生も多く、学部や学科の規模が大きくなることで孤独・孤立感を抱き、誰にも相談できずにドロップアウトしていく学生の存在が課題となっている。コミュニケーションに苦手意識があったり、個別の配慮を必要としたりする学生への対応が求められる機会も年々増加している。神戸女子大学では担任制をとり、細やかな学生対応を行ってきたという歴史がある。また、保健室、学生相談室、学生支援センターなど、学生が気軽に立ち寄り相談できる窓口を整え、どこかで学生の困りごとをキャッチできるような体制づくりに努めている。

私たちの新たな取組

上記体制による対応件数は増加しており、一定の成果が認められる。一方、相談に至らないが困りごとを抱えている学生の存在も課題である。自殺・自傷等の緊急事態に至る前に、日常生活環境である大学キャンパス内で居場所やつながりを持てることが、予防や早期対応の観点からも重要である。そこで神戸女子大学では、「学生による学生のためのピア・サポート活動」を実施した。この取組は心理学部心理学科の学生有志による呼びかけで始まった。学内外の専門職からサポートを受けつつ、学生同士だからこそ可能となる孤独・孤立予防活動のあり方を検討した。並行して、広く大学生を対象に孤独・孤立に関する調査を行った。

悩みながら見つけた前進のヒント

10月以降週1回の定期的なキャンパスカフェの運営をスタートさせたが、当初はスタッフ学生以外の参加が0名となることもあった。そこで、当初実施していたアートワーク・ゲーム・おしゃべり等のコーナーに加え、学習支援(レポート作成への助言等)を行うこととした。心理学科でアートワークを取り入れた授業実践を行っている先生に協力いただき、アートワーク前後の効果測定を行ったり、レポート作成が求められる授業で本取組を紹介したりすることで、来室者が増加した。また、学生支援センター運営会議でも本取組についての報告を行った。その後、学生支援センターからの紹介でカフェに来室する他学科の学生も見られた。

取組の成果

7月に試行実践、10月~1月に週1回キャンパスカフェを開催した(延べ約30名参加)。8・9・12月はオープンキャンパスでの体験(延べ約40名参加)、11~12月は月1~3回ほどのイベント(ピラティス等)を実施した(延べ約70名参加)。調査では、本学以外の大学生計903名、本学学生97名を対象として、孤独・孤立、自己肯定感、自殺、援助要請等に関する項目について尋ねた。他大学生と本学学生の結果を比較検討したところ、本学学生は周りに気を遣ったり、負担になったりしていないかという不安感を抱えている一方で、所属感や相談相手も多く持っていることが示され、日常の中で支えられることの重要性が明らかになった。

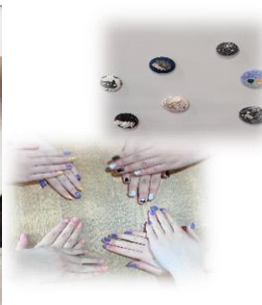
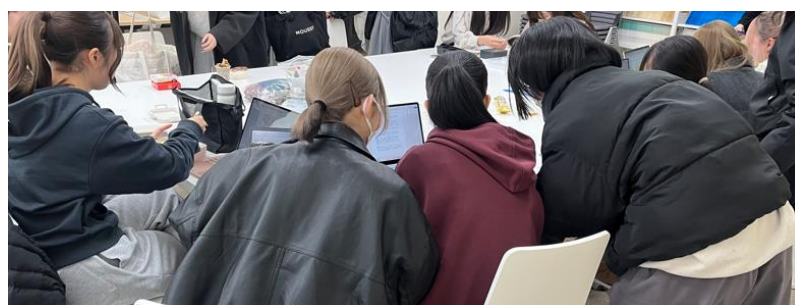
団体概要

団体名	学校法人行吉学園 神戸女子大学
代表者	洪 愛子(学長)
設立年月	1966年4月
住所	兵庫県神戸市中央区港島中町 4-7-2
ホームページ	https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/wu/
メッセージ	本取組を通じて対等な学生同士のサポートの輪が広がっていくこと、大学全体に「助けて」と気軽に言える空気が醸成され、それが社会との絆へとつながっていくことを願っています。

取組の様子



キャンパスカフェは、学生が「あつまれ!ともだちの森」と命名した。週1回の定期開催では、葉・くるみボタン等気軽に取り組めるアートワークやボードゲーム・カードゲーム、レポート作成の補助などを行った。レポート提出前は、特に多くの学生の参加があった。スタッフである3回生からは「私もこうやって先輩に気軽に聞ける機会がほしかった」といった声も聞かれ、縦のつながりづくりの重要性も感じた。

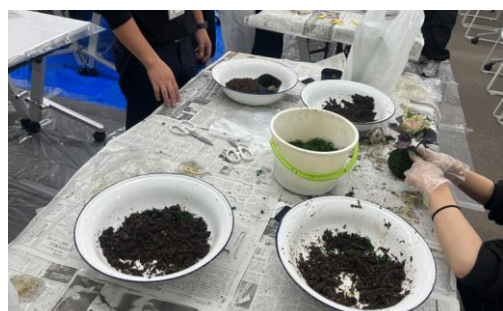


ピラティス体験(11・12月)



クリスマスリースづくり(12月)

アニマルセラピー体験(1月):
セラピードッグ(オペラちゃん)大人気でした



苔玉づくり(12月)



学内子ども食堂での
デコパージュ体験(1月)



1月の開室予定
7日(水)・13日(火)
14日(水)・15日(木)
19日(月)・22日(木)
昼休み@A318教室

LOVOTと遊ぼう!

LOVOTとのふれあい(1月):
テスト・レポート期間に入る1月にはLOVOTレンタルを行いました。ほんのりあたたかくかわいらしいLOVOTちゃんは大人気で、学期末のいい癒しになったようでした。



取組のかたち

居場所づくり
交流の場の提供

届けたい人たち

生きづらさを感じている女性、子ども
ひとり暮らしの女性、子育て中の母親
不登校の子どもとその母親

私たちの軌跡

当団体は、悩んでいる人に気づき・声をかけ・適切な支援につなぎ・見守る「ゲートキーパー」の普及活動に取り組んでいる。2022年度からは、尼崎市受託事業として「ひきこもり支援」にも取り組んできた。アウトリーチや居場所、家族会を通じて当事者やご家族と関わる中で、多くの方が支援のきっかけや人とのつながりを求めていることを実感している。孤独・孤立は、単身者や高齢者、子育て世帯、家に居づらさを感じる子どもなど、さまざまな立場の人が抱えており、目に見えにくい課題である。誰もが安心して暮らせる社会の実現と、孤独・孤立によって命が失われることのないよう、つながりと見守りの活動を継続していく。

私たちの新たな取組

平日の昼間に行き場のない不登校傾向にある子どもとその保護者、ならびに孤独・孤立状態に陥りやすい女性(特に単身高齢女性や子育て中の女性)を対象とした居場所を設置。会場は市営団地の集会室とし、週1回開設。何もしなくてもよい、ほっとできる空間とすることを重視し、安心して過ごせる場所となるよう工夫。開催時間中は出入り自由とし、和室で思い思いに過ごせる形とした。飲み物やお菓子を用意し、企業から寄贈されたフードドライブの食品を提供。また、イベントを実施し、利用者と相談員の自然な交流を図った。相談員が常駐し、行政や関係団体と連携しながら必要に応じて個別の相談支援につなぐ体制とした。

立ち上がった壁と、乗り越えた日々

活動当初は、居場所のあり方や参加のきっかけづくりについて悩み、模索しながら取り組んできた。関係機関や自治会、こども会などの連携を築くため、アウトリーチやヒアリングを重ねた。その一環として、女性限定のヨガイベントや団地住民も参加できるクリスマス会を開催した。一方、居場所ではウクレレや編み物、昼寝など利用者が自由に過ごす姿が見られた。これらの経験から、支援の形を固定せず、人との関わりの中で必要な形を生み出すことの大切さを実感している。自由に過ごせる居場所と目的を持ったイベントの双方を行き来し、柔軟につながり続けることが、孤独や孤立の解消につながる重要なヒントである。

取組の成果

期間中、週1回・月4回開催し、延べ利用者57名、関係機関からの見学者15名の参加があった。不登校の子どもや一人暮らしの女性、生きづらさを抱える女性などが参加し、継続的に利用する参加者も多く見られた。クリスマスイベントでは団地住民の方々の参加もあり、また訪問・見学を通じて新たな関係機関とのつながりが生まれた。利用者からは「トランプが楽しかった」「居心地の良い空間で癒された」「心休まる場所ができた」といった声が寄せられた。今後は交流や遊びの場の提供に加え、利用者のニーズに沿った居場所づくりを進めるとともに、団地住民と共に活動できる、地域に開かれた居場所として継続的な開催を目指す。

団体概要

団体名	NPO法人 ゲートキーパー支援センター
代表者	竹内 志津香
設立年月	2012年12月20日
住所	兵庫県尼崎市御園町24番地 尼崎第一ビル902号
ホームページ	http://monban.net/
メッセージ	悩んでいる人に、気づき・声をかけ・つなぎ・見守る。そんなゲートキーパーの育成とサポートを目的に設立。設立以後は悩んでいる人の身近な人がゲートキーパーとなっていただけのように、職業や立場を限定せず「誰でもゲートキーパー」を目指して普及活動を続けている。

取組の様子





女性と子どものための
自由に過ごせる癒しの空間

ほっとできる居場所 こころ・ね

予約不要 参加費無料

毎週火曜日開催

11:00～15:00

会場

こんな方に…

- ・小さなお子さまがいるママ
- ・学校に通いづらいお子さま
- ・一人暮らしの女性

子育て経験のある女性相談員といっしょに
ゆったりした時間を過ごしませんか？

- ・読書
- ・ゲーム
- ・茶話会
- ・ミニイベント
などの開催も予定
しています♪

お問合せ

詳細は裏面をご覧ください

主催：NPO法人ゲートキーパー支援センター つながり事業部
協力：コープこうべ
本事業は内閣府の委託を受けて実施しています





ほっとできる居場所こころ・ね
クリスマス会
どなたでも参加OK!

参加無料
予約不要

12/23(火)11:00～16:30

場所

遊びに来てね！

- ☆ お菓子・お茶のご用意
しています
- ☆ お好きなお菓子やお飲み物
お昼ごはんの持参OKです

内容

11:00～16:30
・お茶会 … 出入り自由
14:00～
・催しもの … マジックショー
16:00～16:30
・ビンゴ大会

NPO法人ゲートキーパー支援センター
こころ・ね





取組のかたち

自分のペースで過ごせることを大切にした
「安心して人とつながるための準備の場」の提供

届けたい人たち

人とのつながりに不安があり、
生きづらさを抱える人たち

私たちの軌跡

これまでは、ひきこもりに対する啓蒙活動やイベントを中心に活動をしてきた。貸室利用ではなく、地域に密着した常設の居場所が欲しいとの声があり、本事業の取り組みを始めることになった。みんなの居場所クッシーラは、ひきこもり状態にある方や、その家族が、安心して立ち寄れる「居場所」として運営している。外に出ることが難しい方、人と話すことに不安を感じる方、「相談」と言われると身構えてしまう方でも、まずは「そこにただいられるだけ」でよい場を大切にしている。ひきこもり・不登校の人専用の場ではなく、孤独・孤立対策として誰もが利用できる場にするによって、地域交流へ発展することができた。

私たちの新たな取組

居場所での関わりを通して、「少し話してみようかな」「困っていることを聞いてほしい」という声が聞かれるようになった方には、個別相談の機会を設けている。個別相談では、一人ひとりの状況や気持ちを丁寧に聞き取り、生活のこと、家族のこと、将来への不安など、その人にとって必要なテーマを大切に扱っている。また、これまでメール相談やオンラインの居場所を通じて交流があったが、対面で会うことが出来なかった方々もアットホームな雰囲気のある居場所を運営することで気軽に参加してもらうことができた。

つながりを力に—連携の工夫

運営スタッフのボランティアとして、ひきこもり当事者や、ひきこもりを経験した方が関わっている。同じ経験を持つ人が迎えてくれることで、「ここなら安心して来られる」「わかってもらえる気がする」と感じ、初めて足を運べた方も多くいる。また、支える側となったボランティア自身も、居場所の運営に関わる中で「誰かの役に立てている」という実感を持ち、少しずつ自信を取り戻している様子が見られている。当事者・経験者・支援者が一方的な関係ではなく、互いに支え合う関係を築いていることが、みんなの居場所クッシーラの大きな特徴である。

世代をこえた交流を生み出す仕掛け

初めて参加する人からの問い合わせで、「どんな人が来ていますか？」等を聞かれた時は、年齢や属性を前面に出した声かけは行っていない。「同じ趣味の人が来ていますよ」「やさしい雰囲気の人がありますよ」等々、人柄や関心に目を向けた声かけを大切にしている。その結果、不登校の子どもと高齢者が、年齢を意識することなく同じ時間を過ごし、自然に会話を交わす関係が生まれている。「世代交流」を目的にしたのではなく、「安心して過ごせる相手との出会い」を重視し積み重ねたことが、世代をこえた交流につながっている。

取組の成果

みんなの居場所クッシーラの運営を通して、外出や人との関わりに不安を感じていた方が、「安心して過ごせる場所がある」と感じられるようになった。居場所での継続的な関わりの中で、少しずつ表情や言葉が増え、「話してみよう」「相談してみよう」という気持ちが芽生え、個別相談につながったケースもあった。個別相談では、一人ひとりの状況に合わせて丁寧に話を聞き、生活面や家族関係、将来への不安など、本人が抱えている課題を整理することができた。居場所での安心感を土台にしたことで、相談の場でも無理なく気持ちを伝えられるようになり、孤立の軽減や、次の一歩を考えるきっかけに繋がったと感じている。

団体概要

団体名	NPO法人 陽だまりの会
代表者	阿部 さき子
設立年月	2011年6月
住所	兵庫県明石市王子2丁目1-4 みんなの居場所クッシーラ
ホームページ	Instagram @hidamarinokai.kusshira
メッセージ	2025年5月「みんなの居場所クッシーラ」をオープン。国・県・市との連携を図りながらも、生きづらさに悩む全ての方、そのご家族に寄り添い、伴走支援を行っています。対象は、不登校・ひきこもり状態、生きづらさに悩む全ての方やそのご家族です。陽だまりの会で話したことは誰にもどこにも口外しません(秘密厳守)。安心して話してくださいね。相談料は無料。ご家族だけでの相談もお気軽に問い合わせください。

取組の様子





取組のかたち

居場所づくり
交流の場の提供
空家の活用

届けたい人たち

多世代・高齢者
人口減少・高齢化に直面する地域に住む方

私たちの軌跡

私たちは、医療福祉関係者を中心に結成されたNPO法人である。〈住み慣れた但馬地域でこれからも安心して暮らしていけるように〉を活動理念として掲げ、医療福祉という観点を入口としつつもそれにとどまらない複数領域横断的な課題解決(まちづくり)に取り組んでいる。医療福祉の連携推進のみならず、行政、民間企業、一般住民等との連携を図り、住民会議プラットフォームの構築や、「小さな拠点整備事業」への協力など、今後、10年先、20年先も安心して暮らせる但馬地域をつくるための取組を推進している。

私たちの新たな取組

限界集落、兵庫県養父市明延(あけのべ)地域に眠っている空き家を再生させる取組。空き家を再生させるにあたり、次の3つの機能を実装させ、地域内に住む高齢者等の生活を支えるとともに、地域内と地域外との交流を促進させ新しい関係性がはぐくまれる場をつくる。

- 日用品の買い物ができる【明延購買部】
- オンラインを用いて医療福祉サービスにつながる【テレビ病院】
- 地域内外の方の交流が生まれる【空想土産屋】

最初の一步はこんなところから

前述のとおり、私たち法人は、医療福祉という観点を入口としつつもそれにとどまらない複数領域横断的な課題解決(まちづくり)に取り組んでいる。この取組をすすめるにあたり、地域住民の主体的な参画は不可欠であり、そのためにも医療福祉領域のみならず、地域住民の身近なところでも本会の活動を展開することの必要性を感じてきた。このような課題意識のもとで、地元の養父市社会福祉協議会、明延区、そして、コミュニティデザインラボ(三股町社会福祉協議会)との連携関係が構築できたことが力強い後押しとなり、最初の一步を踏み出すことができた。

成功のカギとなった工夫とひらめき

成功を目指すプロセスの途上ではありますが、おおきく次の4点が挙げられる。

- 地元住民とのコミュニケーションを通じ住民の理解を得ながら進めたこと
- 人的リソースを地域外にも求め、遠方から当取組に参画してもらえるプレイヤーを獲得したこと
- SNS等での話題となっていた空き家を対象とすることで、上記を促進したこと
- 地元の養父市社会福祉協議会、明延区、コミュニティデザインラボ(三股町社会福祉協議会)との緊密な連携のもとに活動を推進できたこと

取組の成果

養父市明延地域に《小林たばこ総合会館》が誕生しました。当取組で再生した空き家は《小林たばこ総合会館》と名付けた。オープンイベントの様子は全国ネットのニュースでも放映された。【明延購買部】は地元住民の方の買い物の場として、【空想土産屋】は観光客の立ち寄る場として、新たな人の流れができています。さらに、当初我々が想定していなかった利用(地域住民のサロンの場、豊岡市演劇祭の会場など)も増えて来ています。【テレビ病院】のオンライン診療の実証実験もスタートした。今後は、こうした動きをより加速させ、より深みのあるものとして展開していく。

団体概要

団体名	特定非営利活動法人 但馬を結んで育つ会
代表者	千葉 義幸
設立年月	2019年12月
住所	兵庫県豊岡市高屋1061-6
ホームページ	https://tms-net.org/
メッセージ	当取組は、下記サイトでも発信しております。ぜひご覧ください。 https://akarui-ikki.com/

取組の様子

